

若年性認知症支援コーディネーターとは？

主な業務

① 相談窓口

- ・本人や家族からの相談内容を丁寧にお聴きします。
(医療のこと、社会保障のこと、就労や社会参加のこと、福祉介護サービスのこと等)
- ・適切な医療機関をご案内します。
- ・利用可能な制度やサービスをご紹介します。
- ・本人、家族が交流できる居場所をご案内します。

② 市町村や関係機関と連携体制(ネットワーク)をつくります。

③ 地域や関係者へ若年性認知症に関する正しい知識を普及します。

Q: 相談すると費用はかかりますか？また、秘密は守られますか？

A: 無料です。秘密は厳守します。

Q: 他の医療機関にかかっていますが、相談できますか？

A: 大丈夫です。お気軽にご相談ください。

*若年性認知症支援コーディネーターは、相談の窓口であり、医療機関への受診とは異なります。

Q: 本人や家族以外の人でも相談できますか？

A: 大丈夫です。地域のどなたからのご相談にも対応いたします。

若年性認知症支援 コーディネーターに ご相談ください

医療機関との連携

近くの認知症専門医について知りたい
会社から受診を勧められているけれど、まずどうすればよいの？

財産管理・契約等

財産の管理などの手続きについて知りたい

就労支援

仕事で失敗することが増えてきた。でも仕事を続けたい

経済的な支援

会社を退職して、収入がなく不安
医療費助成や障害年金など利用できるサービスが知りたい

福祉サービス

福祉サービスは使えるの？
介護の方法がわからない

社会参加に関する支援

同じ病気の人と話がしたい
居場所が欲しい



どこに相談したら良いかわからず一人で悩んでいませんか？

ぜひ若年性認知症支援コーディネーターにご相談ください。

池田病院認知症疾患医療センター若年性認知症支援コーディネーター

〒301-0856 龍ヶ崎市貝原塚町3690-2

電話：0297-64-1152（代表） Fax：0297-64-1151

若年性認知症とは？

認知症は、高齢者の病気と思っていませんか。しかし、実は働き盛り世代でも発症することがあります。

若年性認知症の人は、全国に約3.57万人。18歳から64歳人口における10万人あたり若年性認知症発症率(有病率)は50.9人。『働き盛りの認知症』ともいわれています。(厚生労働省・令和2年3月)

働き盛り世代の発症は
様々な場面に問題が生じることがあります。

【若年性認知症の特徴】

- 発症年齢が若い
- 男性に多い
- 異常に気づくが受診が遅れる
- 就労中に発症することが多く、経済的な問題が大きい

【介護者を取り巻く状況の特徴】

- 家庭の問題が顕在化しやすい
- 主介護者が配偶者に集中。親の介護と重なる等(複数介護となる可能性)
- 主介護者が高齢の親であるケースもある
- 子供の成長(心理的葛藤等)に影響

★参考 Obu Center for Dementia Care Research and Practices 令和2年



【ご本人の思い】

「なんで自分が！」
「人生計画が狂ってしまう」
「病気を治してほしい(元通りに戻してほしい)」
「仕事を続けたい(家族を養わなくてはならない)」



【ご家族の思い】

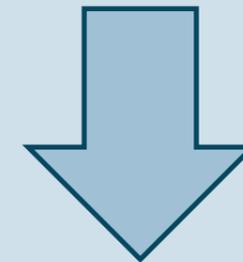
「この年齢でまさか！」
「子供の人生に影響がでないか」
「働きにでなくては」「介護、どうしよう」



【子どもの思い】

「どういうこと？」
「進学や就職、結婚はどうなる？」

社会から孤立しやすく居場所を失ってしまうのではと不安



若年性認知症の方を支える社会制度があります

若年性認知症支援コーディネーターにご相談ください